

「地域とつながり、地域に貢献する活動をめざして」

平成 25 年度高知県実践的防災教育推進事業 拠点校 宿毛市立片島中学校

I 学校における背景、問題意識

(学校・地域における防災上の課題)

- ・本校は海拔 1.4m、海岸からの距離約 50 m の場所に位置している。最大級の南海トラフ地震が発生すれば、震度 6 弱～6 強以上の揺れが 100 秒以上続き、30 cm の津波の到達時間は 24 分、最大浸水深 9 m と想定され、津波による甚大な被害が予想される。
- ・自主防災組織等の防災の取組が活発な地域もあるが、各地区によって温度差が見られる。
- ・校区には高齢者の方も多く、避難に対して不安を感じており、20 代～40 代の若い世代の防災の防災意識の高まりが望まれている。

(生徒の実態)

- 平成 25 年 5 月実施「防災アンケート」より分析
- ・「1 人で登下校しているとき地震が起きたら、安全な場所に避難する事が出来ますか」(出来ない 8% 分からない 51%) と自信のない生徒が多く、登下校中の訓練を行う必要がある。
- ・「地震発生後、周りの人の安全のために何か出来ることはありますか」(出来る 23% 出来ない 10% 分からない 67%) 1 年生は 38% が (出来る) と高いが、全体的に、(やりたいが、どうしてよいか分からない) という生徒がかなりいる。

II 取組のポイント

研究主題

「仲間、地域とつながり、命を守るために主体的に行動できる生徒の育成」

取組内容

「地域とつながり、地域に貢献する活動」

【全校での取組】

- ・様々な場面を想定した避難訓練
- ・防災マップ作成・地域に配布

【各学年のテーマに沿った取組】

III 取組の概要

1 片島中の防災教育の目標

- ・地震や津波に対する、基礎的知識を理解し、正しい判断力と素早い行動力を身に付ける
- ・地域とつながり、地域の防災に貢献できる生徒の育成を図る

2 取組内容

【全校での取組】

(1) 様々な場面、地域・保小と連携した避難訓練 (平成 25 年度の実施内容)

<第 1 回> 5 / 23 (木) 6 校時 (1 年生)

- ・新生が学校の避難場所を確認
- ・片島区長参加

<第 2 回> 5 / 29 (水) 6 校時 (全校)

- ・全校で教室から実施
- ・片島区長参加

<第 3 回> 7 / 18 (木) 昼休み (全校)

- ・それぞれが違う場所から実施

<第 4 回> 9 / 8 (日) 9:00

(港南台地区と合同)

- ・避難訓練以外に炊き出し訓練、AED



講習、ゲーム等

- ・港南台区長参加

<第 5 回> 10 / 7 (月) 終学活時 (全校)

- ・防災ヘルメット着用の訓練

<第 6 回> 11 / 12 (火) 16:30

(部活動生徒)

- ・放課後、2カ所のルートから避難
- ・サッカー部は福祉センター屋上へ



<第7回>11/24(日)9:00

(宿毛市全体)

- ・宿毛市合同避難訓練(9月の延期分)

<第8回>11/26(火)7:30

(小中合同)

- ・小中合同で登下校時に一番近い避難場所へ避難

<第9回>11/26(火)午前中

(咸陽保育所と中学2年生)

- ・2年生が、防災出前授業の後、保育園児と一緒に保育園の避難場所へ避難

<第10回>12/10(火)午前中

(大島保育所と中学2年生)

- ・2年生が、防災出前授業の後、保育園児と一緒に保育園の避難場所へ避難

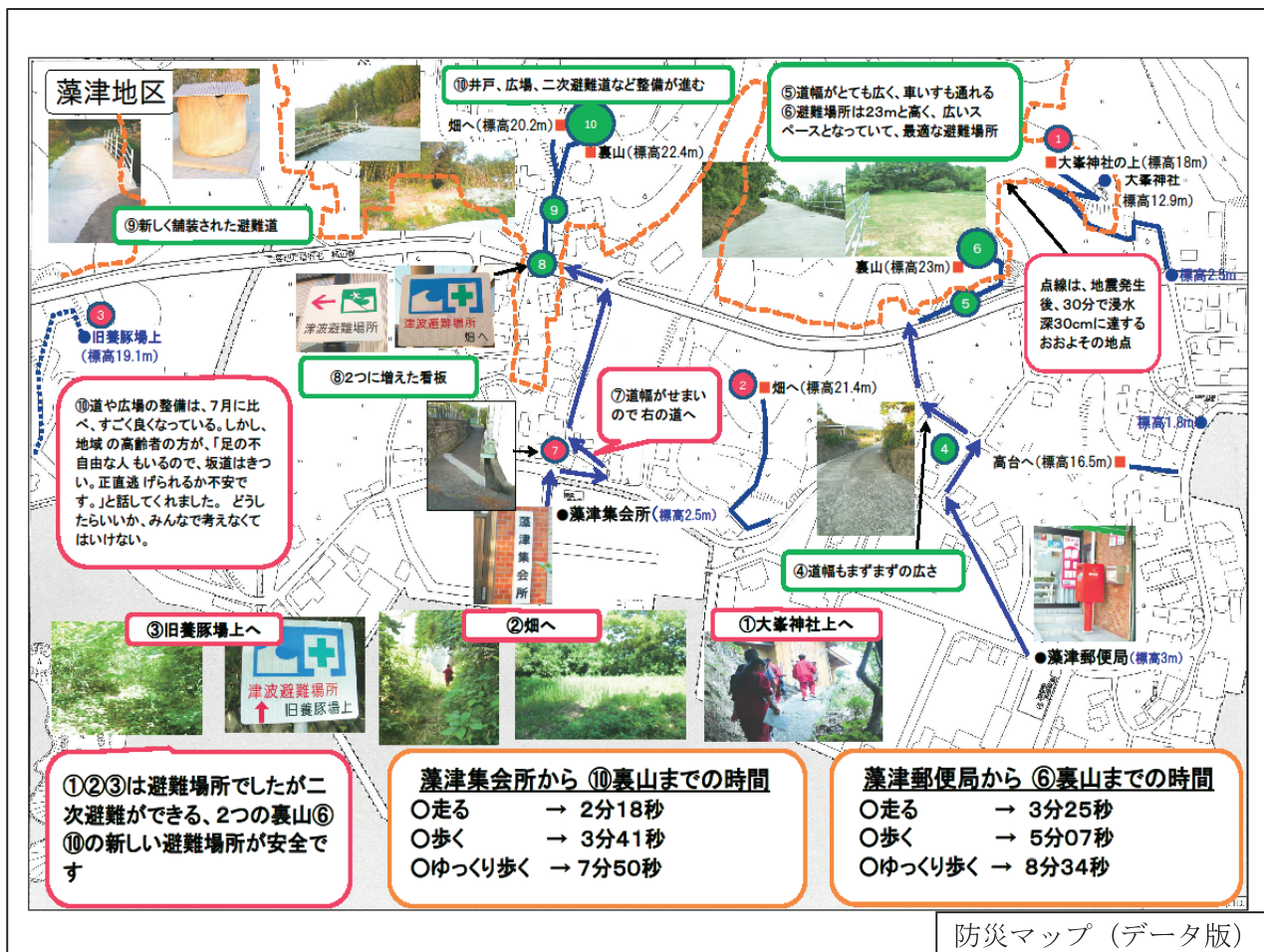
(2) 防災マップを全校縦割り班で作成・地域へ配布

<目的>

- 自分たちのまちを知り、好きになることで、命を守る「防災」への第一歩にする。
- 家庭や通学時の避難場所を調べることで、発生した地震や津波に対し、正しい判断力と素早い行動力を身に付ける。
- 発表会や資料の配布を行うことで、家庭、地域の防災に中学生が貢献する。

<中学生の防災マップになるために大切にしたいこと>

- 命を守る取組であることを自覚し、全員が真剣に取り組む。
- 教師主導でなく、生徒が探求する形を仕組む。
- 人との出会いを仕組む。
※ものだけでなく、人の視点もふまえる。
例(小学生や保育園児、高齢者の立場での避難の課題は?)



【各学年での取組】

(1) 1年生の取組（家庭とつながる）～家庭と安全対策を考える～

「自分の命や周りの人の命を守るためには、今できることを先延ばしせず、今することが大切」という釜石市の被災者の思いから、自分たちが今しておくべきことを実践する学習に取り組んだ。

まず、家庭の安全対策状況（家具転倒防止等の対策・非常持ち出し袋や備蓄品の準備等）の情報から、各家庭の課題とその解決策を考えた。次に、気付いた課題や解決のための対策、安全への願いなどをリーフレットにまとめ、命を守るための家族への提言として、家庭に向けて発信した。生徒と家族が安全対策について一緒に考えることで、学習したことが家庭で理解され実践されやすくなると考え、課題ワークシートや授業で使用した資料を持ち帰り、話し合う時間（家族防災会議）を3回促した。また、生徒から保護者へ、保護者から他の保護者や地域・職場の方へと情報が伝わることで地域全体の防災力の向上につながることを期待して取り組んだ。

<総合的な学習の時間> 指導と評価の計画（全15時間）

	時間	主な学習活動	評価				
			解	表	活	評価規準	評価方法
課題設定	1	○今後の学習の見通しを持つ ○津波からの避難について知る (NHK シンサイミライ学校1視聴)			◎	津波避難3原則の意味を理解している	観察
	2	○二次避難場所を確認し、実際の避難をイメージする			◎	避難場所までの経路や安全、所要時間を知る	観察
情報収集／整理分析	3	○防災マップを作ろう ①ガイダンス	◎			命を守るために役立つものや危険性を持つもの等について、具体的に記録し、改善策を提言している	マップ情報記録用紙
	4	②縦割り班打ち合わせ)					
	5	③フィールドワーク				○役割分担などで協力しあっている	観察
	6						
	7	④マップ作り					
8	模造紙版は公民館等に掲示 印刷版は地域の各戸配布予定						
課題設定	9	○津波でんでんこについて知る (NHK シンサイミライ学校2視聴)			◎	家族が信じ合って1人でも逃げることの大切さを理解している	ワークシート
情報収集／整理分析	10	○津波でんでんこ避難、避難後に落ち合う場所、連絡手段等について家族と話し合い、その結果を報告し合い、より良い方法を考える	◎			家族で話し合ったことを積極的に発表し、より良い方法を考えようとしている	観察
	11	○家庭の安全対策を考える ①地震が起こった時の室内の危険性について知り、安全対策を考える	◎		○	自分の考えをまとめている	ワークシート
	12	②自宅の安全対策について調べてきたことを報告する 災害後、生き延びるために必要な物資や平時からの準備等について知る	◎		○	自宅の安全対策の現状と問題点を把握し、対策を考えている 非常持ち出し袋や家庭内備蓄に必要な物を理解している	ワークシート 観察
	13	○ちゃんと逃げる自分を作る 資料映像をもとに、避難できない人間の心理を知り、今後の自分の行動をどうするべきか考える	◎		○	率先避難の重要性を知り、命を守る行動について自分のこととして具体的に述べている 「正常性バイアス」「集団同調性バイアス」について、経験に基づいた発言や記述がある	観察 ワークシート
まとめ・表現	14	○家庭の安全対策を考える ③防災メッセージを書く		◎		防災を目指した具体的な提言や家族への防災メッセージを、意欲的に書いている	リーフレット
	15	○命を守るために役立つ情報をポスターにして、校内に掲示する		◎		分かりやすいまとめ方や、見た人の心に残るメッセージを協力して考えている	観察 ポスター

(2) 2年生の取組 (保小中とつながる)

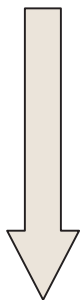
～保小防災出前授業～

<取組の過程>

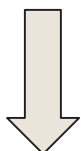
ステップ1：防災出前授業の目的を説明し、どんな内容をやりたいか生徒にアンケートをとる。



ステップ2：2A(6班)・2B(5班)(1班4人～5人)で出前授業に行く保育園、小学校を分担し、内容を生徒アンケートの集計をもとに決定する。同じ方法にならないように、同じ場所同士で調整する。



ステップ3：事前発表会を各学級で行う(1時間)。見せ合うことで、発表内容が良くなったと同時に、自分たちに防災の意識が浸透してきた。



ステップ4：出前授業と合同避難訓練の実施(避難訓練は時間の関係で保育園のみで実施)

- 咸陽小学校・保育園 11月26日(火)
2校時目(9:30～10:15)
- 大島小学校・保育園 12月10日(火)
2校時目(9:30～10:15)
- 3校時目：学校へ帰校後、振り返り

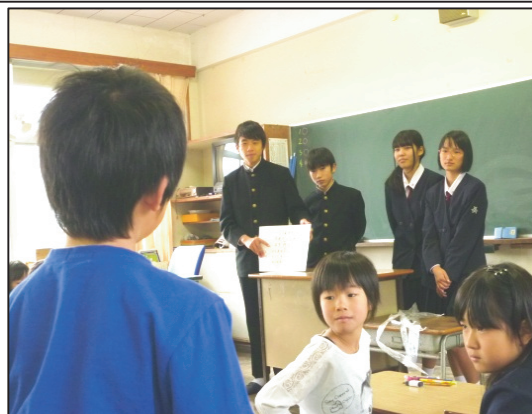
<出前授業の内容>

- ・自分の身を守るため(映像、画像やクイズ等)
- ・防災クイズ(津波避難三原則等を説明)
- ・1人でも逃げる!～津波てんでんこ～(紙芝居)
- ・避難について(アンパンマンの劇で)等



生徒の振り返りより

- ・僕達も同じ気持ちになって地震についてよく考えられたと思う。この教えたことなどいろいろ活かしてほしいです。僕達も全力で逃げたり、リーダーシップをとったりしてがんばっていきたいです。
- ・思っていた以上に、保育園の子どもたちが地震について知っていて、質問とかにも積極的に答えてくれた。また機会があれば行きたい。避難訓練も、一生懸命やっていた。保育園の先生達は、小さい子たちを連れて行かないといけなくて大変だったので、本当に地震が来た時私たちに何かできることがあったらやっていきたいと思った。



(3) 3年生の取組 (地域とつながる)

～高齢者の方へ防災アンケートの実施～

<地域と高齢者の方に伝えたいことを考える>

地域の方が避難する場合、何を優先して逃げるべきなのか、またどのようなものを持って避難すればよいのかを話し合

った。自分たちには不必要でも高齢者の方には必要である物の意見が出る等よく考えて発言できていた。そして話し合った結果をまとめ、フィールドワークを行う際に配るカードの作成・地域の現状を知るための質問事項を考えた。

<地域の実態を知る（地域フィールドワークへ）>

片島地区の一人暮らしの高齢者の方を訪問し、避難カードの配布・防災アンケートの聞き取りを2人1組の6チームで2日間行った。各チームは75歳以上の一人暮らしの方(15人～20人)を訪問した。訪問する方のリストは区長さんが作成してくださった。

フィールドワークを行う際、各チームには区長さんや公民館の方々が一緒に回り案内してくださったのでスムーズに訪問することができた。ただ、実際に地域を歩いてみると、中学生には簡単に思える「避難すること」が、とても難しい状況の方も多く、生徒たちは驚きを隠せなかった。2日間とも留守の家には訪問したことがわかるようにメモを残す工夫もした。短時間ではあったが、高齢者の方々の現状と思いを聞ける貴重な体験となった。



IV 成果と今後の取組

1 取組を振り返って 成果と課題

避難訓練では生徒は真面目に集合し、避難できたが、100%本気の行動ができず、まだまだ真剣になりきれない生徒がいるという課題も残った。そこで、下記のように訓練への本気度を自己評価させることで意識を高め、実践的な訓練をめざしていくことにしている。



防災マップは、地域とつながり、地域に貢献する第一歩にしたいという思いがあり、全校生徒を自分が住んでいる各地区に縦割り班に分けて行った。自分の住む家の近くや地域の避難場所を確認できたことは大きな意味があった。フィールドワークの途中で高齢者の方と出会い、「足が悪くそこまで行く自信がない」「坂道に手すりをつけてほしい」などの思いを聞くことができた。短い時間ではあったが地域に貢献する取組を行うにあたって中学生の役割が見えてきた。

地域フィールドワークを行った生徒の感想より

- ・自分たちは逃げるのが普通にできるので軽く考えていたが、高齢者の方は難しく普通のことではないことが分かった。
- ・高齢者の方の目線になったら、中学生もできることはあると思った。

【避難カード】

避難をしたことが一目で分かる表示カードを作成し、一人暮らしの高齢者の方に配布した。避難行動を促す意味もある。



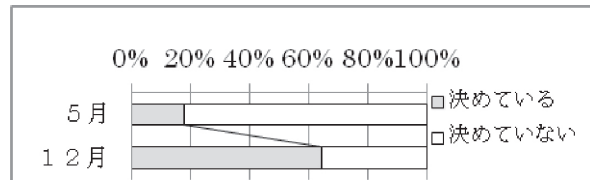


縦割り班で、防災マップ作成

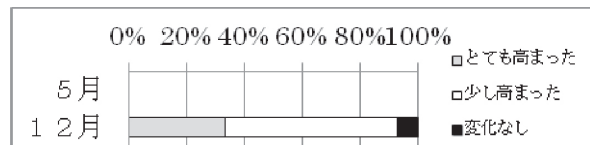
1年生は、防災アンケートの結果から、生徒だけでなく家庭の防災意識も高める必要性を強く感じ、1学期から地道な取組を続けていった。家庭では避難場所や家庭での約束ごと等、生徒が家庭に帰って保護者と一緒に話し合い、その結果、意識が変わってきた家庭も多く見られた。

保護者 防災アンケート（防災意識の変容）

○地震などで避難した時に、家族で集合する場所を決めていますか。



○4月と比べて、保護者の方の防災意識はどうか変化しましたか。



2年生は、校区内の2小学校と2保育園に防災出前授業に出かけた。少ない資料の中、生徒はアイデアを出し合い、予想していた以上の発表ができた。自らが課題意識を持ち、地域へ貢献する活動を広げ、続けていきたい。保小共に防災の知識や意識が高く、中学生にとり、たくさんの気づきがあったことにも感謝したい。



3年生は、地域へ出て高齢者の方への防災アンケートを実施した。アンケート内容は生徒が考え、中学校の避難場所である片島地区の区長さんの協力を得ながら、75歳以上の1人暮らしの方のお宅を訪問して話を聞いた。生徒は現実に直面しながらいろいろな思いを感じ、考えることができた。



2 次年度へ向けて～取組の継続・発展～

- ・避難訓練→小中合同避難訓練の継続、下校時に地域と合同で避難訓練を実施する。
- ・防災マップの発展 →全校で片島中全校区の避難場所を巡る。得た情報を防災マップに反映させる。

・各学年の取組

1年 → 入学式で保護者へ防災の取組を発信する。授業参観等で親子で一緒に行う活動を実施する。

2年 → 出前授業：内容をレベルアップさせる。わかりやすく伝えるプレゼンの練習をする。

避難訓練：保育園の避難時の課題について考え、提言する。

3年 → 高齢者への聞き取りを片島中学校区全体に広げる。